

株式会社 NMC

人と自然環境に優しさと安全を 化学の力で金属加工の現場を支える



▲代表取締役の湯田仁氏。社長室には小平で活躍する画家の作品が飾られている。

金属加工業などで使われる防錆剤や除錆剤、機械のケアやメンテナンスに用いる薬剤などを開発、販売するNMC。人と環境への優しさを追究した商品に定評がある。

**金属加工に欠かせない
さまざまな薬剤を販売**

「世の中にある金属は、原則錆びます」と話すのは、防錆剤や除錆剤の販売を行う、NMC代表取締役の湯田仁氏。確かにそうだ。自然界では銹物として存在するものを人の手で抽出し、わざわざ純度を上げていくのだから。他の物質と結びついている状態が、自然なのだ。となると、私たち人間が金属を扱う時に

「世の中にある金属は、原則錆びます」と話すのは、防錆剤や除錆剤の販売を行う、NMC代表取締役の湯田仁氏。確かにそうだ。自然界では銹物として存在するものを人の手で抽出し、わざわざ純度を上げていくのだから。他の物質と結びついている状態が、自然なのだ。となると、私たち人間が金属を扱う時に

は錆びを「止め」、「取り除く」必要が出てくる。実際に、金属加工場でもちろんのこと、素材を形づくる金型などの機械部品に対しても、錆びに対するメンテナンスが生じる。

「世の中にある金属は、原則錆びます」と話すのは、防錆剤や除錆剤の販売を行う、NMC代表取締役の湯田仁氏。確かにそうだ。自然界では銹物として存在するものを人の手で抽出し、わざわざ純度を上げていくのだから。他の物質と結びついている状態が、自然なのだ。となると、私たち人間が金属を扱う時に

特に、ワイヤークットと呼ばれる放電加工を用いた金属の切断となると、錆び対策が重要になる。というのも、切断は水中で行われ、さらに切断面はまっさらな状態だ。空気に触れればたちまち錆びて

いく。そこで除錆剤を使って錆びを落とし、さらに防錆剤で表面をコーティングする工程が必要になるのである。

「金属のあるところ、当社の製品ありという具合です」

**体や環境への負荷を少なく
商品に込められた思い**

「フッ化水素酸は、非常に危険な薬物です。骨や皮膚を溶かす口ポロに腐食したり、呼吸困難を引き起こしたりだけでなく、死亡事故も起こっています。そこで、フッ化水素酸不使用のものをつくれないかと、3年半の歳月をかけて開発しました」。

また、切削機には切削時の金属同士の摩擦を減らすための切削剤が欠かせない。さらに、機械の洗浄剤や手を洗う石鹸なども必需品となる。NMCはこれらの商品も揃えることで、金属加工の現場をサポートに支える。

人体への安全性を最優先するのと同社の信念だ。

例として、東京工業高等専門学校と産学協同で開発したステンレス用溶接焼け除去剤を挙げよう。一般的な溶接焼

け除去剤は、フッ化水素酸が含まれているという。だが、「フッ化水素酸は、非常に危険な薬物です。骨や皮膚を溶かす口ポロに腐食したり、呼吸困難を引き起こしたりだけでなく、死亡事故も起こっています。そこで、フッ化水素酸不使用のものをつくれないかと、3年半の歳月をかけて開発しました」。

皮膚保護クリームの販売で、販路拡大



▲同社が販売を開始した、皮膚保護クリーム「スキフレンドクリーム」。

ものづくりの現場は、手肌にとっては非常に過酷だ。ざらついた金属に薬品、そして水に囲まれた環境では、いくら手袋をしていたとしても、皮膚が荒れてしまう。「中には手荒れを理由に離職する人も。ハンドクリームでは、気休め程度にしか効かないそうです」そこで同社では、皮膚保護クリームの販売を開始。作業前に塗ることによって手肌をバリアし、手荒れを防ぐ。もともとは一般用だった商品を、製造業への販路拡大につなげた。「農業、食品、レジャー、介護分野への進出も、現在進行中です」

「末永くご愛用いただくには、当社ならではの価値を提供し続ける必要があります。また、販売して終わりではありません。時に苦情をいただくことがあるのですが、原因を探ると使い方を誤っていることも多い。正しい使い方を知り、商品のよさをご納得いただけるように続けてご購入いただけます。信頼関係を築くことが何より大切です」

「絵画教室やミニコンサートスタジオとしての利用が多いですね。駅にも近く、子どもからお年寄りまで訪れます」

人への優しさを大切にしている経営姿勢が、同社発展の原動力といえるだろう。

現在の納入先は1000社以上に上る。中には日本を代表する重工業メーカーなども並び、品質は折り紙付



▲防錆剤、除錆剤など主力商品の数々。

株式会社 NMC



〒187-0035 東京都小平市小川西町4丁目14番地27号
TEL: 042-345-1356 FAX: 042-345-1527
URL: <http://www.kk-nmc.jp>
創業: 1975年11月
代表者名: 代表取締役 湯田仁
事業内容: 工業化学製品、環境関連製品などの製造、販売

